

岐阜県の窯業と多治見市の美濃焼事業所の分布

2 回生 伊藤 美月

I. はじめに

焼き物といえば何を思い浮かべようか。多くの人は六古窯とされている信楽焼や備前焼などを思い浮かべよう。しかし、忘れてはならないのが美濃焼である。美濃焼は普段の私たちの生活の中にあり触れている焼き物なのである。美濃焼とは、岐阜県多治見市を中心に東濃地方で焼かれた陶磁器のことであり、東濃地方は日本最大の陶磁器生産地域である。代表的な美濃焼には織部焼、志野焼といったものが存在する。また美濃焼は食器生産量が全国の60%を占めていることも特徴である。本稿では、全国及び岐阜県における窯業生産の状況について押さえた上で、岐阜県東濃地域で、窯業の盛んな多治見市を取り上げ、美濃焼の事業所の分布について、統計や聞き取り調査を踏まえて考察する。

II. 全国における窯業の推移

まず、はじめに、全国における窯業の推移について見ていく。事業所数、従業者数ともに減少傾向にあるが、生産額は2008年にピークを迎え、一旦減少するも2014年にはまた上昇している(図1、図2)。事業所数、従業者数の減少はグローバル化の進展等により、輸入品の増加が影響していると考えられる。輸入品の増加により日本国内で作るものが減り、事業所や従業者が減少してしまったのである。このことより、日本で窯業に関わる仕事をしている従業者は少なくなっているが、生産額は近年持ち直していることがわかる。

III. 岐阜県における窯業の推移

次に、岐阜県における窯業の推移について見ていく。これは、岐阜県陶磁器工業協同組合連合会から提供された資料により作成したもので、組合に入っていない事業所のデータは反映されていない。こちらも全国と同じように、事業所数、従業者数ともに減少傾向であるが、従業者数は近年横ばいである(図3)。聞き取り調査によると、安いものを大量に作ることによって収入が減り、それに伴い給与も減額し、後継者不足が生じ、廃業してしまう事業所も多いため、事業所数が減少傾向にあるとのことである。また、組合連合会を脱退してしまう事業所もあるとのこと、脱退してしまった事業所については、状況は不明である。従業員数の増減が近年横ばいで、従業員数の減少に歯止めがかかっているのは、2007年から産業振興の取り組みや、産地の活性化に向けた調査・提案の取り組みが行われ

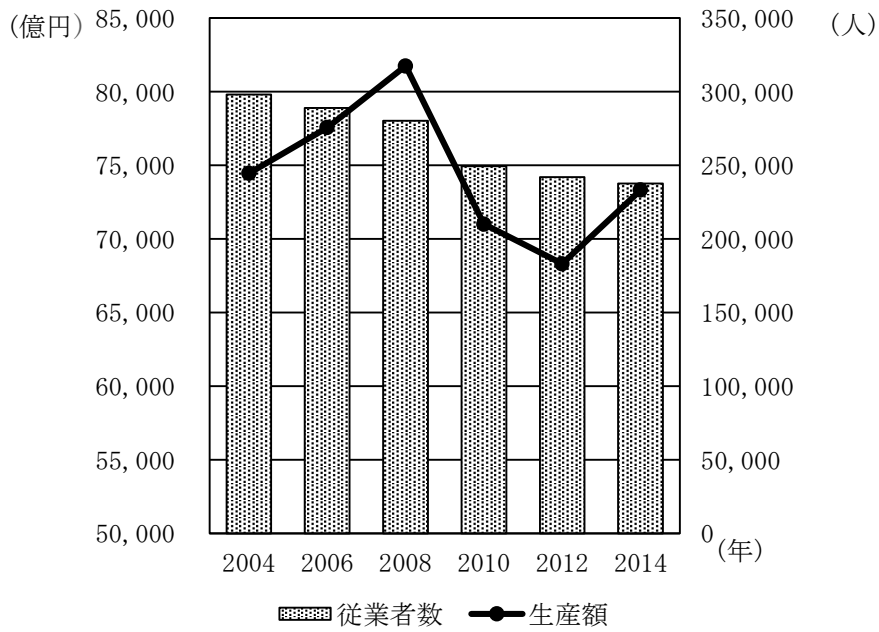


図1 全国における窯業の従業者数・生産額の推移
(工業統計調査より作成)

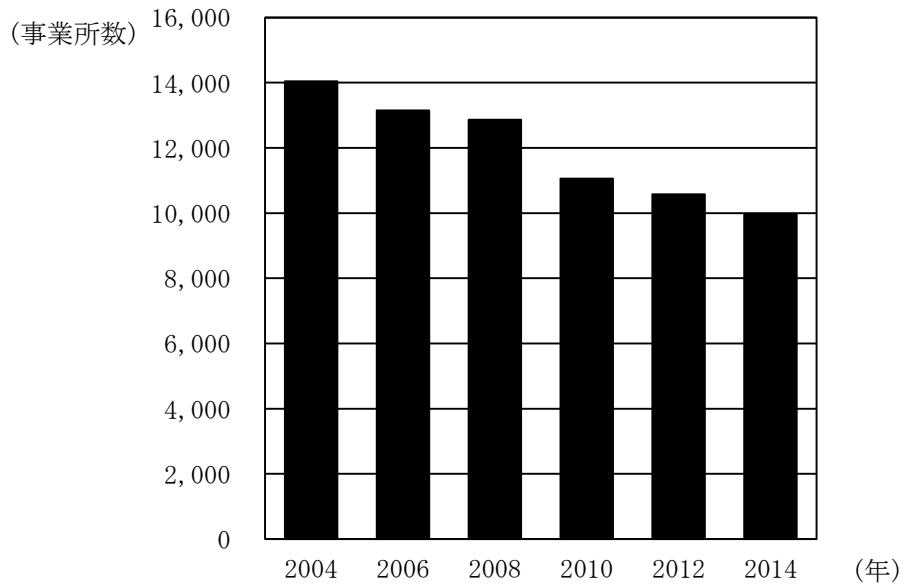


図2 全国における窯業の事業所数の推移
(工業統計調査より作成)

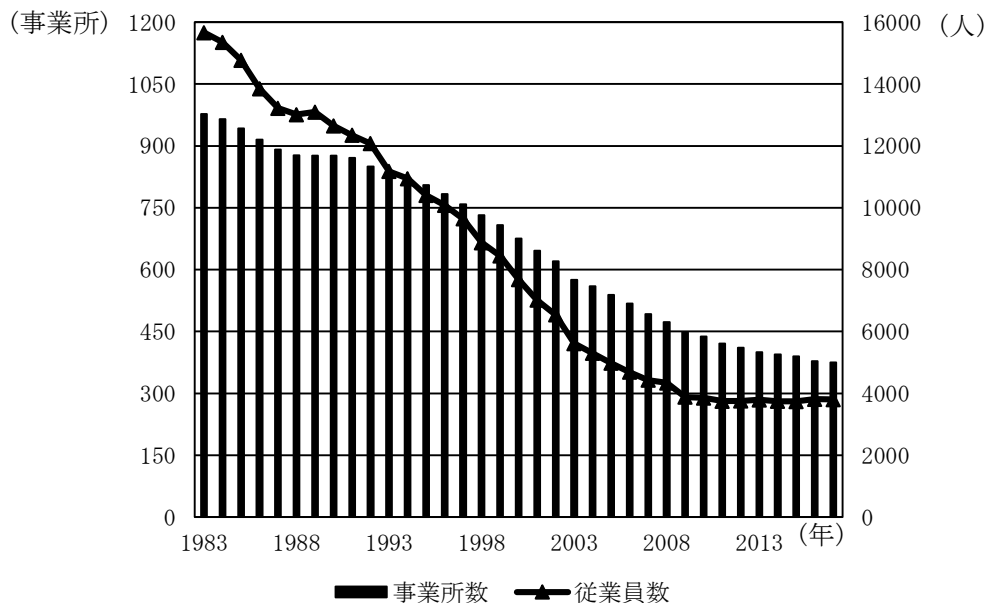


図3 岐阜県における窯業の事業所数・従業員数の推移
(岐阜県陶磁器工業協同組合連合会提供資料より作成)

ていることが、理由の一つではないかと考えられる。以上より、図3のように岐阜県の窯業における事業所数、従業員数が依然減少傾向にあり、岐阜県における窯業は年々衰退傾向にあったが、2009年頃からは減少傾向に歯止めがかかっていることが確認できる。

IV. 陶磁器・美濃焼の生産

次に、図4は窯業のなかでの全国の陶磁器の生産、図5では、美濃焼の生産の推移を示したものである。全国の陶磁器生産出荷額、美濃焼生産出荷額、美濃焼飲食器生産出荷額ともに減少傾向にあるが、近年では減少傾向に歯止めがかかっている。美濃焼生産出荷額の中のおよそ半数を美濃焼飲食器生産出荷額がしめている。美濃焼には飲食器だけでなく、タイルなども含まれるが、これより美濃焼とは主に飲食器であることがわかる。

美濃焼とは、陶磁器の中でも特徴がないことが特徴であるとされている。特徴がないというのは、美濃焼全体を言い表す時に用いるのに最適な言葉がないことを示している。例えば、備前窯には釉薬（焼き物に色を付けるもの）を使わない焼き締め（の制作方法）でできる赤みの強い味わいや窯変による模様という特徴があったり、常滑窯には原料に含まれる鉄分を赤く発色させる技法で焼き物が赤くなるという特徴があったりする。美濃焼の中には、緑の釉薬が多く使われる織部焼や、白を基調とする志野焼、黄色の黄瀬戸、黒

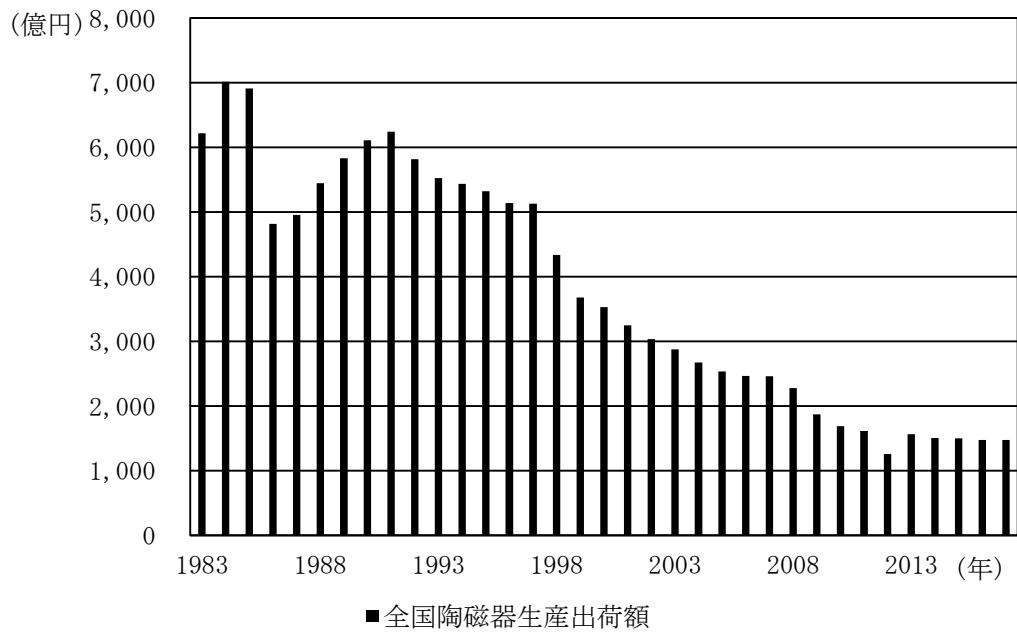


図4 全国における陶磁器生産出荷額の推移
(岐阜県陶磁器工業協同組合連合会提供資料より作成)

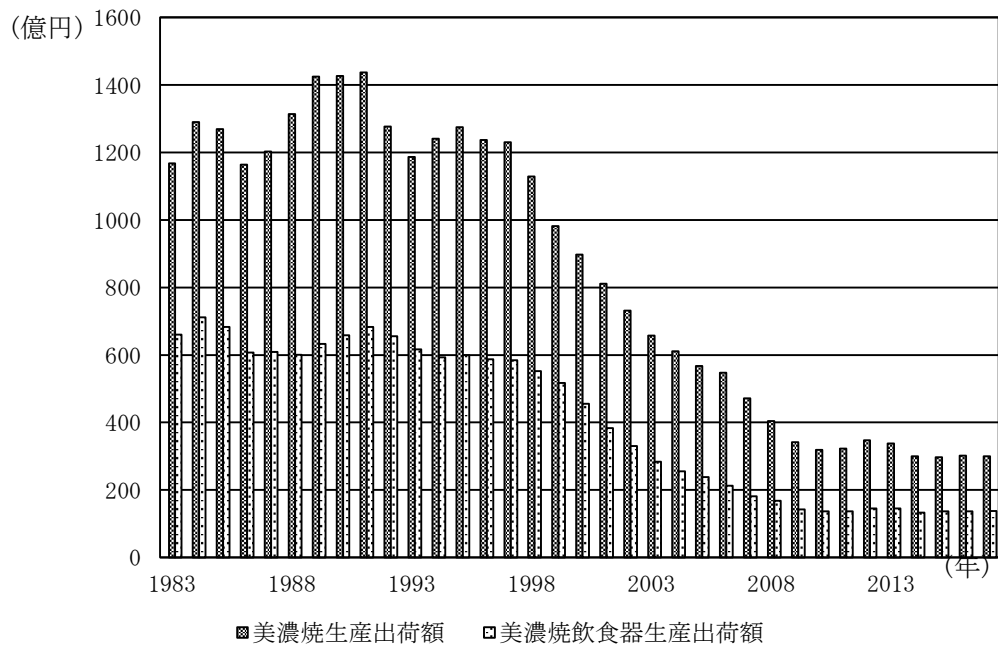


図5 全国における美濃焼生産出荷額・美濃焼飲食器生産出荷額の推移
(岐阜県陶磁器工業協同組合連合会提供資料より作成)

色の瀬戸黒など、美濃焼という分類の中の小分類では特徴のあるやきものが多く存在している。このように、美濃焼の中の焼き物にそれぞれ特徴が多いため、美濃焼の特徴を述べる時に美濃焼全体を言い表すことが難しいのである。

V. 多治見市における陶磁器生産

次に、多治見市の窯業関連の事業所について見ていく。多治見市は市之倉地区のさかづきの生産でよく知られており、その生産量は日本一だと言われている。また、美濃焼の製作工程には素焼きを行い、釉薬を塗り、本焼きを行って、最後に上絵付けをする、分業工程がある。また、陶磁器卸業、陶磁器店といった陶磁器の販売に関係する業者も存在する。そこでここでは、事業所の分類を、陶工芸店・やきもの工芸店、陶磁器上絵付、陶磁器卸、陶磁器店、陶磁器製型・製版、陶磁器製造、陶芸家、陶芸材料の8つに分けた。

図6は、多治見市内における8種類の事業所の分布を示したものである。図6を見ると、主に多治見市の中心部である住吉町に陶磁器卸業が集中していることがわかる。また、無地の陶磁器に色や絵柄をつける陶磁器上絵付業も主に多治見市の中心部の住吉町に多く見られる。

多治見市の陶磁器生産にかかわる事業所は主に3カ所（市之倉地区、高田・小名田地区、滝呂地区）に集中している（図6）。そして、3カ所とも陶磁器製造業が最も盛んに行われていることが図6より見て取れる。市之倉地区では土岐川の支流の市之倉川沿いに事業所が分布している（図7）。市之倉地区は「さかづき」の生産でよく知られており、「市之倉オリベストリート」と呼ばれ、窯元が多くある地域である。高田地区・小名田地区は美濃焼の中の高田焼や小名田焼と呼ばれる焼物の産地である（図8）。滝呂地区はコーヒー碗皿やマグカップ、皿類の白磁製品の産地であり、この地区ではマグカップなどの取っ手をつける技術があったため、先に挙げたような製品が主に作られている。また、この3カ所のように決まった場所に陶磁器製造業と陶芸家が分布していることから、陶磁器生産は原料立地であることがわかる。

高田・小名田地区周辺にはスプリングフィールドゴルフクラブ、多治見カントリークラブといったゴルフ場が設置されている（図8）。これらのゴルフ場は、土を採った後に設置されたと考えられる。1970年代と2018年の空中写真とを比較すると、市之倉地区周辺には図10において○で記したように、土を採った跡地や、土を採った後にできた住宅地がみられる。図11は滝呂地区の一部であるが、こちらも市之倉地区同様、○をつけた場所では、山林の面積が減り、主に工場や住宅地になっていることから、土を採った後の場所を再利用したと考えられる。

以上のことにより、窯業の分布は原料立地であることと、原料を採取した後の土地利用がゴルフ場、工場、住宅地へと変化していることがわかった。

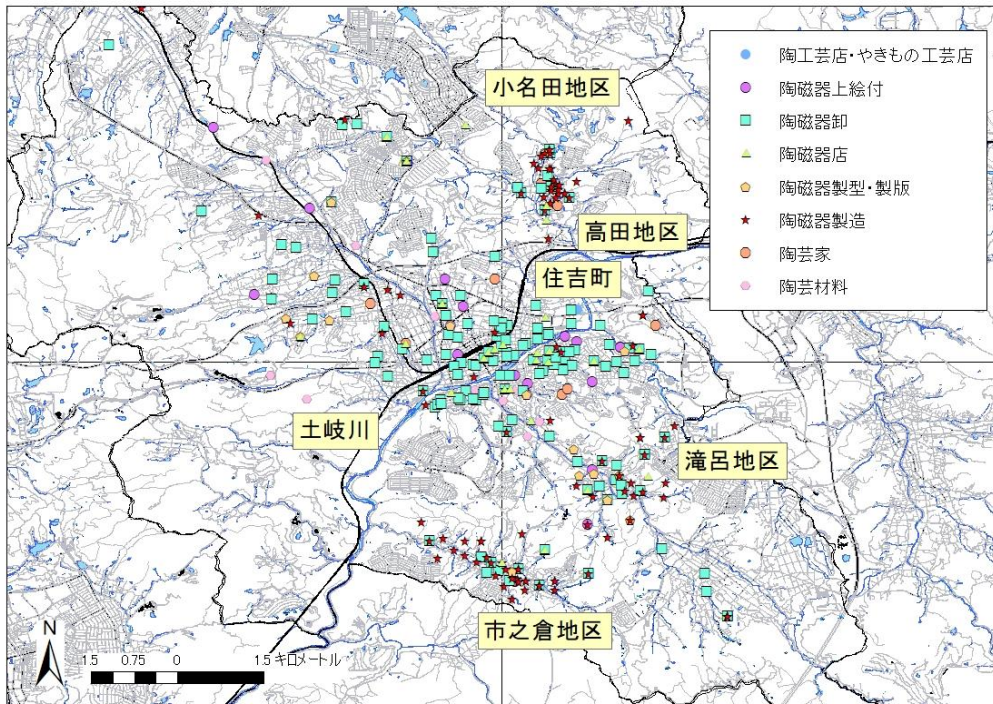


図6 多治見市における窯業関連の事業所の分布 (2018年)
 (岐阜県東濃版タウンページより作成)

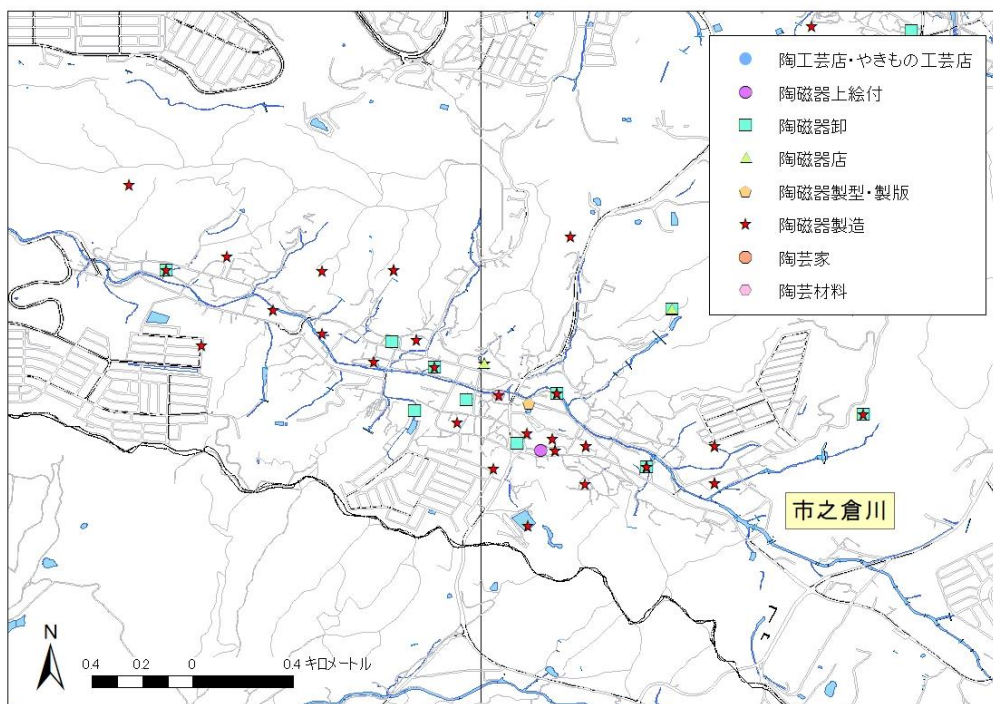


図7 多治見市市之倉地区における窯業関連の事業所の分布 (2018年)
 (岐阜県東濃版タウンページより作成)

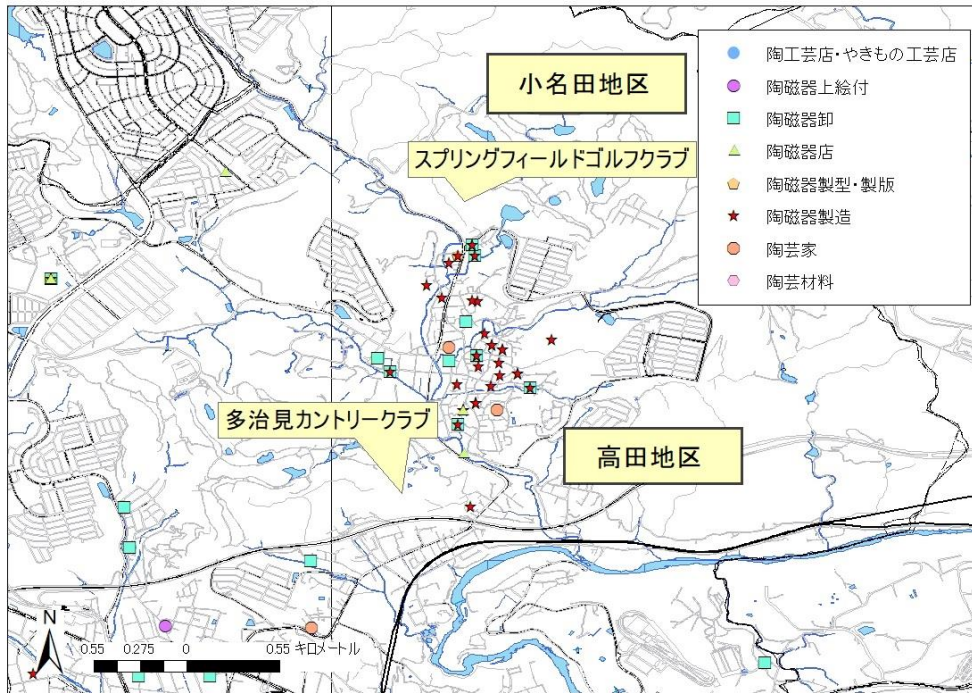


図8 多治見市高田・小名田地区における窯業関連の事業所の分布（2018年）
 (岐阜県東濃版タウンページより作成)

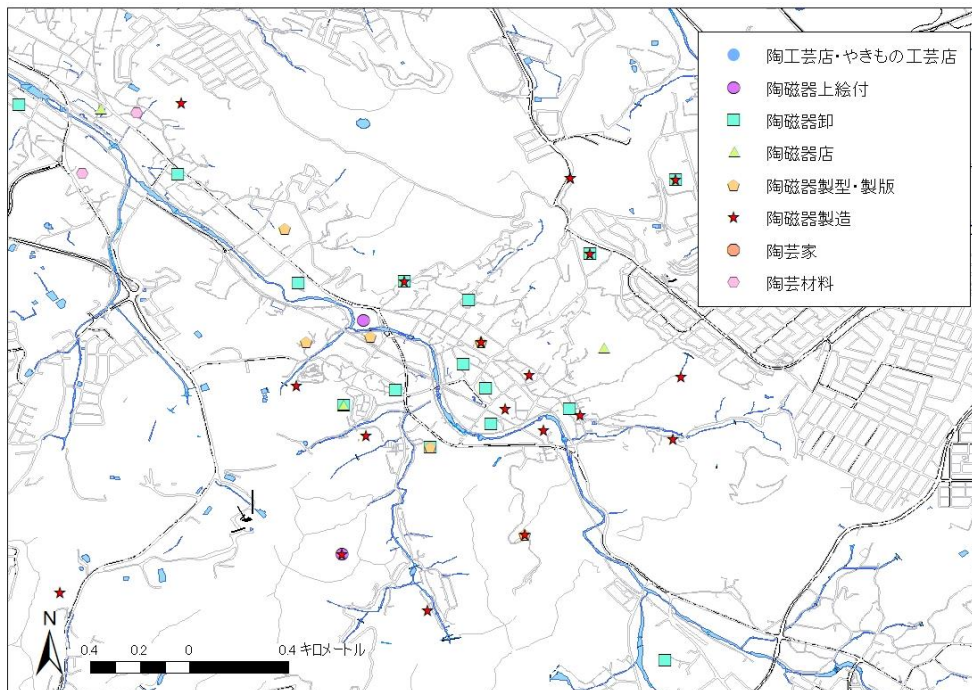


図9 多治見市滝呂地区における窯業関連の事業所の分布（2018年）
 (岐阜県東濃版タウンページより作成)



1974～1978年



2018年

図10 市之倉地区の景観の変化
(国土地理院 web ページより引用)



1974～1978 年



2018 年

図 11 滝呂地区の景観の変化
(国土地理院 web ページより引用)

VI. おわりに

本稿では、全国と岐阜県の窯業の推移、多治見市の陶磁器関連の事業所の分布を見てきた。多治見市の陶磁器関連の事業所の分布では、陶磁器卸業や陶磁器上絵付業は市街地に、陶磁器製造業は川沿いの丘陵地に多いことが分かった。1970年代と現在の空中写真を比べると、土を採った後の土地利用の変化が明らかとなった。岐阜県全体の窯業は衰退傾向ではあったが、近年は減少傾向に歯止めがかかっていることが確認できた。また、最近ではより多くの人に美濃焼を知ってもらおうべく、海外まで活動の幅を広げている陶芸家がいたり、最新の技術を使って美濃焼を進化させようと日々力を注いだりしている人がいる。中国製の安い飲食器の流入による売り上げの低下や、今はまだ大きな問題になっていないが、原料の枯渇などの問題が残る中、美濃焼産業をいかにして盛り上げていくかを課題として取り組む人もいる。

身の回りにあふれている美濃焼を、今後どれほど多くの人により認識されていくのか、また、いかに美濃焼に新しい価値を付け加えていくのかがこの先の美濃焼産業の課題となるのではないのだろうか。

—付記—

本稿を作成するにあたり、岐阜県陶磁器工業協同組合連合会の水野英明様、幸兵衛窯の加藤亮太郎様、岐阜セラミックス技術研究所の岩田芳幸様には、お忙しいながらも大変お世話になりました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

—参考文献—

- ・美濃焼くるくるホームページ <https://www.minoyaki-kurukuru.com> (最終閲覧日 2019年3月9日)
- ・ぎふの旅ガイドホームページ <https://www.kankou-gifu.jp/spn/> (最終閲覧日 2019年3月9日)
- ・窯業協会編 1963. 『日本窯業総覧』 窯業協会